



# Risk Flash No.19 (Vol.2 No5)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター  
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也  
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1  
TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189  
e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)  
Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- ご挨拶：士魂商才について思うこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1
- 今週の論文紹介：温泉会社の源泉リスクと観光資本家・・・・・・・・・・Page 2
- 教員紹介：伊藤博之・リスク研究センター通信・・・・・・・・・・Page 3

## ご挨拶

### 士魂商才について思うこと

おおもりしゅうたろう  
大森修太郎 大森会理事長

滋賀大学経済学部の前身の、彦根高等商業学校の建学の精神が「士魂商才」だといわれています。現在も経済学部の理念のひとつになっていますが、この士魂商才とはどなたが言い出し、どのような意味なのかを私は十分には理解できておりません。字面から「日本の武士のように高潔な精神を持って尚且つ進取の経営手腕を持ち合わせること」程度の理解をしております。ただこの言葉と大変共通する内容の話を、私が勤めておりました京セラの稲盛社長（現名誉会長）が人生の生き方としてよく引き合いに出しておられました。事業家のあるべき姿としての福沢諭吉の言葉がそれです。

思想の深遠なるは哲学者のごとくにして  
心術の高尚なるは元禄武士のごとくにして  
これに加うるに小俗吏の才をもってし  
さらにこれに加うるに土百姓の身体をもってして  
初めて実業界の大人たるべし

哲学者のごとくとは深い思想の持ち主であること。また元禄武士のごとくとは、赤穂浪士が忠と義に生きたように、高尚で正直な心根を持っていること。小俗吏の才というのは下っ端役人が持っているような小賢しさ、悪賢いと思われるほどの頭の切れは持っていないなければならない。さらにこれに加うるに頑健な体を持ってはじめて「実業界の大人」となれるというわけです。

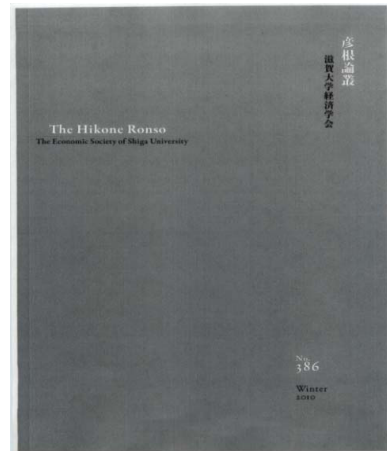
稲盛さんは、人生の結果＝考え方×熱意×能力、とも言っておられます。とくに考え方がマイナスになれば、人生の結果は惨憺たるものになるというわけです。士魂商才ということばを今一度よくかみ締めたいものです。

## 今週の論文紹介

温泉会社の源泉リスクと観光資本家 遠距離引湯の廃絶例を中心に

著者：跡見学園女子大学教授・滋賀大学名誉教授 おがわいさお 小川 功  
収録：彦根論叢 No. 386:2010 winter、pp.80-93

概要：本稿では長距離引湯による良質な泉源確保というビジネス・モデルに不可避な経営リスクを、地誌や近年の地域研究の成果等により事情がある程度判明した4社の事例を経営史的な視点から要約することによってその概要を明らかにしたい。すなわち設立順に①洪水で流失・流破・廃湯した旧温泉を現在地に引湯し直した新温泉場を法人化で再建した小川温泉株式会社、②引湯木管の継口不全等のため流水混入による泉温低下の不評で解散した盛岡温泉株式会社、③遠隔地の源泉から引湯する経路で樋管撤去を要求する強欲な地主と係争に巻込まれた愛本温泉株式会社の3社を若林秀行氏らの近年の研究成果を援用して概観したのち、④本稿主題の黒田原温泉株式会社の廃絶事例を主に最近の『那須温泉史』の研究成果に依拠しつつ検討することとしたい。なお未解明な部分が多く残されている観光資本家(特に個人経営者)の全体像についても、本稿は温泉会社の役員・大株主分析等の周辺部から接近するための序論としたい。



### 著者のつぶやき

在籍の折には滋賀大のOB経由でリスク研究センターから種々サポートいただきましたが、現任校でも引き続きリスク研究の継続を心がけております。所属学科が観光マネジメント学科ですので、現在のテーマは観光企業の経営リスクの歴史的研究が中心になります。

観光を勉強すればするほど、この産業は本当にリスクの渦中であって、リスクマネジメントがきわめて重要なのだとあらため

て痛感しております。にもかかわらず金融機関などが安易に巨額の投融資を敢行することが古来、何度も繰り返され、虚業家が暗躍する格好の舞台となっているようです。山師が活躍する鉱山投資にみられた過度の期待感・高揚感のようなものが、観光産業にも随所に窺えまして、研究している私自身が観光産業の妖しい魅力にはまってしまうような昨今です。

## 教員紹介「伊藤博之」

わたくしの研究分野は経営学（組織論）です。この分野の研究者は、いろいろなテーマをつまみ食いにする傾向があります（理論的な関心で、実際には、それぞれのテーマは関連しているのですが）。わたくしもこれまで、日本企業の新事業開発、アメリカ企業論、陶磁器や酒造業などの伝統産業などについての現地調査を踏まえた研究や、組織について哲学的な考察のようなことをおこなってきました。

現在の研究状況ですが、一昨年に10年間特に時間をかけてきたアメリカ企業論に関する研究が一段落してから3月末まで、学内の委員等の仕事で、所謂「研究」のための時間をとることがほとんどできませんでした。しかし今それも「お役御免」となり、自分の研究のための時間がある程度とれる

ようになりました。これを契機に、研究室などを埋めていた過去の資料を思い切って処分することとして、これまで模索してきた研究テーマであるサービス産業の取引関係や組織統治というテーマに関して、今一度学生に戻った気持ちで勉強を始めたところです。ただし、捨てる資料と新たに収取る資料が混在し、残念ながら研究室は以前よりさらに雑然とつつあります。

趣味というものは無いのですが、最近、今まで興味のなかった分野の本を読んでみるとか、日常生活の中での習慣を少し変えるといった些細な変化を楽しく感じられ、そのような事々を意識的にこなすようにしています。研究室を整理整頓する習慣も、そのうち身につく日が来るかもしれません。

企業経営学科教授 伊藤博之<sup>いとうひろゆき</sup>

## リスク研究センター通信

### (1) 荒谷先生最終講義

荒谷勝喜リスク研究センター客員研究員の最終講義が2011年4月19日（火）に行われました。荒谷先生は、伊藤忠商事で石炭や資源エネルギー部門を中心に活躍され、伊藤忠商事執行役員大洋州総支配人兼豪州会社社長を務められた後、2006年10月にリスク研究センター客員教授として滋賀大学に赴任されました。現実の資源ビジネスをこなしてきた実務家が語る授業は迫力があり、学生の評価も非常に高いものでした。

この日の「日本の資源エネルギー問題－福島第一原子力発電所事故を踏まえて－」と題した授業には、今回の原発事故の影響の分析、放射能問題や地域復興問題もさることながら、「更に長期で大きな問題がある。それは、

原子力から他エネルギーにシフトが起こる際の日本のエネルギー政策のあり方と現実の資源

を押さえる重要性である。」との強いメッセージがありました。

教室に集まった約300名の学生、教員は普段なら少しざわつく大教室にもかかわらず、静かに深く先生の授業に聞き入りました。

（文責 久保英也<sup>くぼひでや</sup>）



荒谷先生セミナーの様子

### (2) 経済学部講演会のお知らせ

- ・日時： 5月19日（木）14：30～16：30
- ・会場： 経済学部講堂<sup>いわくにてつんど</sup>
- ・講師： 岩國哲人氏（元メリル・リンチ米国本社上席副社長、前衆議院議員）
- ・論題： 地震を越えて日本の自信 —巨大地震の中に発想の転換と新鮮な政策を打ち出せ  
災害に強い街づくりとエネルギー小国・消費大国からの脱却—
- ・入場無料・問合せ先、申込み先（電話かメール）：  
滋賀大学経済経営研究所 tel. 0749-27-1047 メール [ebr@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:ebr@biwako.shiga-u.ac.jp)
- ・詳細： <http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/kouenkai2011/20110519.html>

### 「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

#### 【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

#### 【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

#### 【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

#### 【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

#### 【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

＊尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

( ☞ <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3/12> )

＊当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター  
編集委員：ロバート・アスピノール、金乗基、久保英也、  
澤木聖子、得田雅章、弘中史子、宮西賢次  
滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局  
(Office Hours:月一金 10:00-17:00)  
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1  
TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189  
e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)  
Web page : ☞ <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>